



小さな花を大きな実りへ

校長 野間 義晴

学校の水田の稲に花が咲きました。

春に田植えをした稲は、夏になると葉を増やすことから、穂を作り始めます。穂は小さな花がたくさん集まっていて、一つの穂にだいたい100個くらいの小さな花がついていました。小さな花が咲くとおしべの花粉が風に運ばれてめしべにつき、熟すにつれて少しずつ黄金色に変わっていき、お米が実っていくのです。稲の花は、わずかな時間しか咲きません。だから、稲の花は、なかなか見ることができないのでしょう。



「39」、この数字は夏休み前の朝会で、今年の夏休みの日数の話をしたときに使った数字です。一人一人、みんながちょっとずつ花を咲かせて成長したら、菊名小学校全体ではものすごい成長になると話したとおり、休み明け、一段と成長した子どもたちの姿にとてもうれしくなりました。家庭や地域でお支え頂きましたこと感謝申し上げます。

この夏休みに、稲穂が花を咲かせたように、それぞれに花を咲かせるような思い出があったのではないのでしょうか。努力したこと、本気で取り組んだこと、やり遂げたこと、いろいろあることでしょう。

夏休み中も学校で育てている生き物の世話を学校に来た子もいました。マーチングバンドの子どもたちも熱中症予防に気を付けながら、暑さに負けず練習に熱心に励んでいました。8月末には、「だれもが安心して生活できるよう、いじめ問題に向き合い、自ら解決しようとする子ども社会」を目指し、市内各中学校ブロックで代表児童生徒が話し合います。誰もが安心して生活できるように、居心地のよい学校づくりに向けて教職員も様々な研修を重ねています。

ここ数年の間に、異常気象はますます進み、コロナが吹き荒れ、世界は手探りで暗中模索する時代に翻弄されています。激変し続ける時代を生き抜かなければならない子どもたちには、どんなに想定外の状況に直面しても怯むことなく、自分の頭で考え、相手にとっても自分にとっても最適な道を、力を合わせて切り拓いて花開いていくことが求められます。そのためには、子どもが主体的に物事を考えたり、能動的に行動を起こしたりする場面や、心を開き合って仲間と深くかわり合う場面を、学びの中で展開していかなければならないと考えます。それがとりもなおさず学習指導要領でいう「主体的で対話的で、深い学び」につながるのです。

夏休み中、それぞれに花を咲かせた菊名の子。夏休みの思い出を糧に、夏休み後もお米の稲穂のように「こころゆたかな きくなの子」に向けて大きな実りを見せてくれることを期待しています。